

学校の耳鼻科健診の結果をもらったら



学校では毎年4～6月頃に耳鼻科健診、聴力検査を行います。「耳鼻科受診が必要です」と書かれていたら、どんな対応が必要かご説明しましょう。



「耳垢があります」と書かれたら

「耳垢があります」と書かれたら、暗に、「耳垢がたまっていてよく診察できませんでした」を意味しています。耳そじを忘れずに。

こんなときは耳鼻科へ

- 耳垢の量が多い
- 耳垢がガチガチに固まっている
- 無理をしないで。耳こう水で軟らかくしてから取ります。
- たびたび「耳がかゆい」「耳垢を取って！」と訴える

外耳に湿疹ができていてかさぶたになっていることがあります。放っておくと湿気で耳垢がふやけたときに耳が圧迫されて痛みが出たり、聞こえに影響したり、外耳炎に発展することも。外耳炎になってカビが生え真菌性外耳炎を起こすと、治るまで長くかかります。

●耳そじのポイント

1、お風呂上りに月1度

湿っていると綿棒でこそっても傷つきにくい。

2、目に見える部分だけ

耳垢は普通自然に外へはがれ落ちます。

3、太い綿棒で耳の穴の壁をなぞるように

細い綿棒や竹の耳かきは、手元を誤ると危険。表面の皮膚が傷つくと外耳炎を起こすことも。



プール前までには必ずきれいにしておかなくちゃ。

鼻炎のままプールの水が耳に入ると、急性中耳炎や滲出性中耳炎を起こすことも。プール前は鼻炎もよくしておいてね。治療には最低1週間かかるのでお早めに。プールに入る前の注意！



もろほしクリニック・三鷹もろほし耳鼻咽喉科・吉祥寺もろほし耳鼻咽喉科



「鼻炎」と書かいたら

考えられる主な病気は…

●アレルギー性鼻炎

アレルギー性鼻炎と言われた小さいお子さんは、スギ花粉と接触した時間がまだ短いのに鼻の粘膜に異変が見られたということ。花粉症予備軍で、花粉症になつたら重症になりやすく、アトピーやぜんそくなどほかのアレルギーの病気にかかるリスクが高いとも考えられます。一度アレルギーの検査をして、今後の治療方針を立てましょう。根本的に治せる舌下免疫療法は、小さいお子さんでもできるようになりました。

●滲出性中耳炎

滲出性中耳炎を放置すると、難聴や慢性中耳炎などの後遺症を残すことがあります。右の症状が見られたら耳鼻科で医師に相談してください。

小さいお子さんは、少し聴力が落ちているだけでも言葉の発達の妨げにつながるので、きちんと治療することが大切です。

小さいお子さんの場合

- ・落ち着きがない
- ・注意力散漫
- ・いつも鼻水が出ている
- ・よく鼻水をすりあげる
- ・後ろから呼んだときに反応が遅い

大きいお子さんの場合

- ・「聞こえ」が悪くなったような気がすると訴える
- ・耳がふさがったような感じがすると訴える
- ・耳鳴りがすると訴える



聴力検査でチェックされたら

学校の聴力検査は必ずしも静かな環境で行えないこともあります。正確に判断されずにチェックされてしまうこともあります。念のため耳鼻科で検査しましょう。

一番多いのが滲出性中耳炎による一時的な難聴で、この場合は滲出性中耳炎を治療します。

難聴が出る原因はいろいろです。

確率は少ないですが、だんだん進行する体質的な難聴のはじまりであります。体質的な難聴は完治することは難しいですが、早く見つけてあげることでお子さんのこれからの進路などへの影響を少なくすることができます。まずはかかりつけ医に相談を。当院では必要に応じて、詳しい検査をする大きい病院を紹介しています。



学校では聴力の正確な検査は難しいのね。

きちんと診断して、病気がかくれていればその治療をしましょう。

